



*Edition*

身体の内景

人は、  
思考より先に  
身体を持つ。

考え方より前に、  
感情より前に、  
身体はすでに  
一つの形をしている。

その形は  
言葉より早く  
外に出ている。

身体は  
外側ではない。

内側の構造が  
形になったものである。

姿勢、  
歩き方、  
手の置き方。

そのすべてに  
身体の内側が  
映っている。

身体は、内側の構造の形である。

身体には  
それぞれの構造がある。

同じ動作でも、  
同じ姿勢でも、  
人によって  
印象は変わる。

それは  
技術ではない。

構造の違いである。

身体は、固有の構造を持つ。

人は  
身体の構造のまま動く。

整えようとしても、  
矯正しようとしても、  
身体は  
本来の形に戻る。

動き、  
姿勢、  
間。

そこに  
身体の構造が  
あらわれる。

動きは、身体の構造を映す。

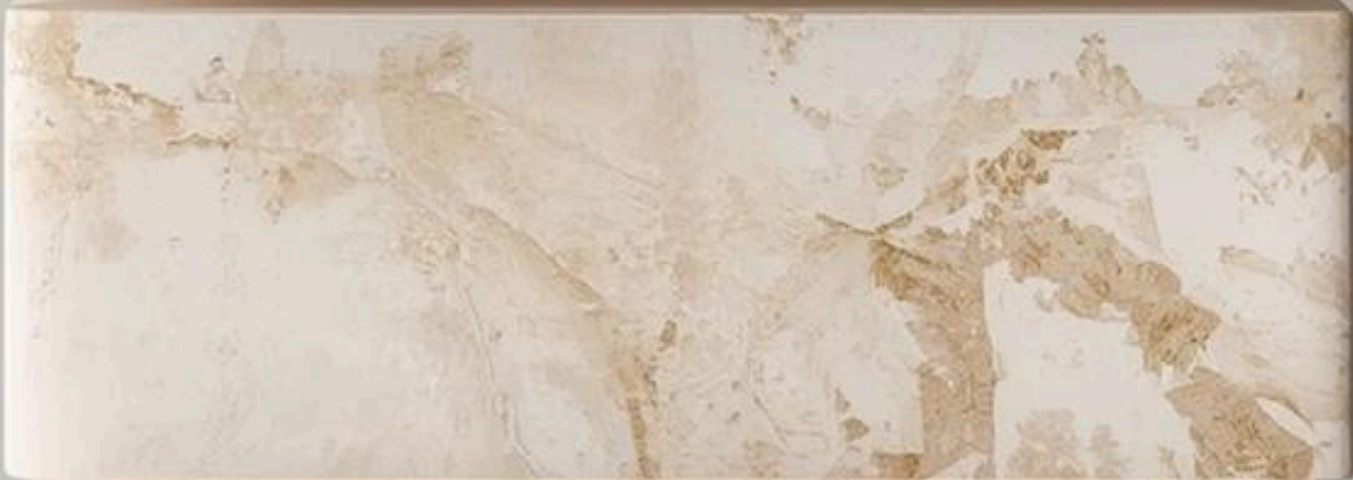
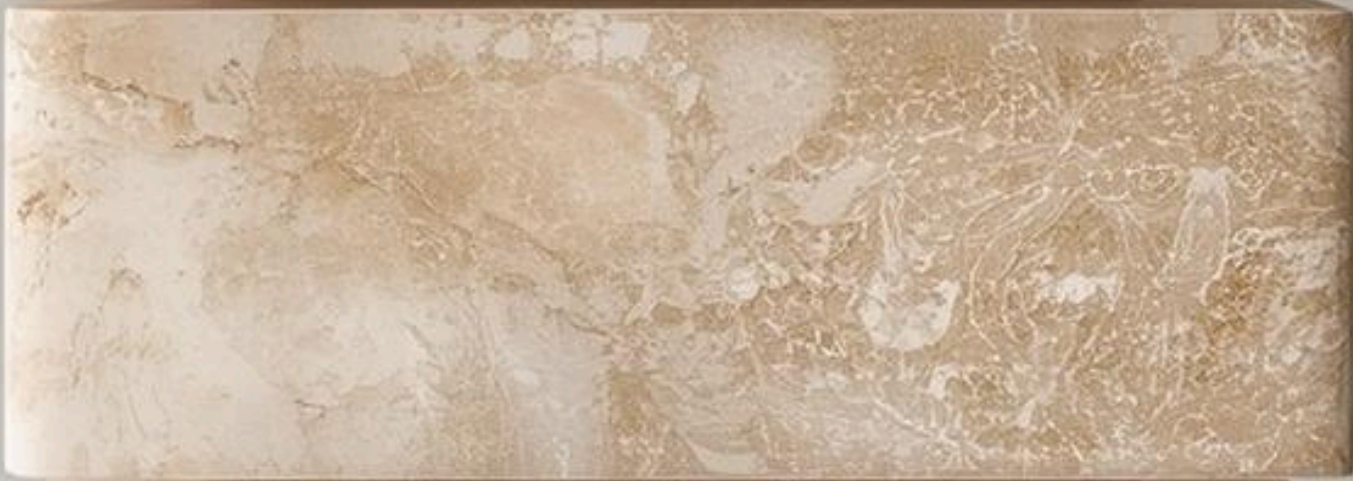
身体は  
語らない。

だが  
その構造は  
隠れない。

姿勢となり、  
動きとなり、

やがて  
その人の  
佇まいになる。

佇まいは、  
身体の構造から生まれる。





R.

Edition | 身体の内景

美学思想家  
古川玲奈

発行：Raffiné